

令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立富士中学校

5月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和3年5月27日(木)

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学)

- | |
|---|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。 |
|---|

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例)国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

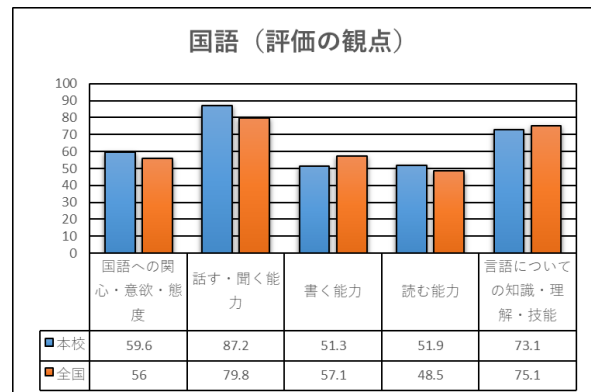
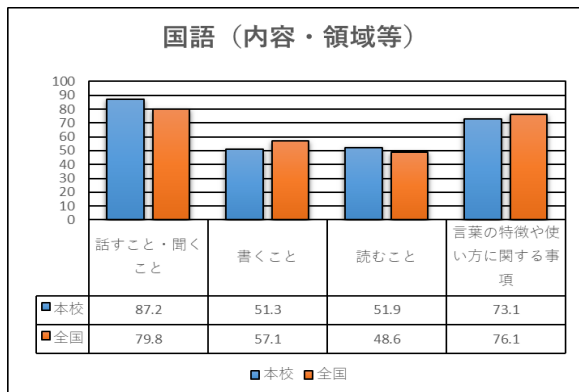
全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語について

(1) 結果

全国正答率との比較(%)



内容・領域等では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」が全国の前正答率を上回っている。評価の観点では、「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「読む能力」が上回っており、「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」が、共に全国平均を下回っており、課題がある。

(2) 成果と課題

①話すこと・聞くこと

「話し合いの話題や方向を捉える」「質問の意図を捉える」問題については9割を超える高い正答率であったが、全国平均を大きく上回ったものの、「話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える」問題については、7割強程度の正答率にとどまり、自分自分の意見を出すことにやや課題がみられる。

②書くこと

概ね全国平均をやや下回る正答率であった。「書いた文章を読み返し、語句の使い方を工夫して書く」問題は全国平均をやや上回っていたが、できている生徒は3分の1程度であった。「文章の構成の工夫を考える」問題は全国平均を大きく下回った。推敲する力はある程度あるが、文章の構成を工夫する力の習得が必要である。記述式の問題に対する無解答は0人であり、書くことへの抵抗感を感じられない。

③読むこと

全国平均の正答率をやや上回っている。「文脈の中における語句の意味を理解する」ことはできているが、「場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する」ことが苦手であるため、多様な文章に触れ、文脈の中での語句の理解や抽象的な概念を表す語句の理解を深めていく必要がある。

④伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

漢字の読み書きや語句の意味を理解することは全国平均を上回っており、毎日の課題の取り組みの成果が表れていると言える。しかし、「事象や行為などを表す多様な語句について理解する」「相手や場に応じて敬語を適切に使う」力には課題が残る。今後とも、辞書を活用したり、読書で多くの言葉に触れたりすることで、言葉と概念を結び付ける指導が必要である。

(3) 学力向上のための取組

■学校においては

- 語彙力を増やし、日常生活で活用できるよう、辞書を活用した授業を推進する。週1回漢字テストを実施し、語彙力を高める課題を出し、それに伴う小テスト(再テストまで実施)を行う。
- 单元ごとに必ずパフォーマンス課題を設け、書く力と話す力を総合的に養う手立てをとる。
- 朝読書に継続して取り組み、読書環境を作ることで、想像力・思考力を高めていく。

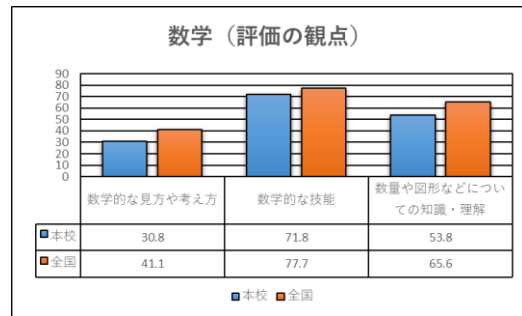
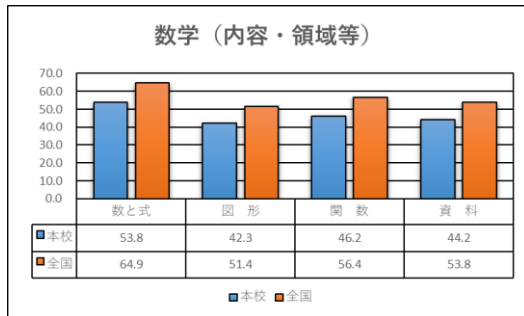
■家庭においては

- 言語活動の充実を図るためには、語彙を増やすことが必要です。読書で新しい言葉と出会い、辞書で意味や用法を確認し、体験で言葉を獲得していくことが大切です。家庭でも国語辞典や漢和辞典を備え、年齢に応じた本を読める環境(会話も含めて)を整えてほしいと思います。

2 数学について

(1) 結果

全国正答率との比較 (%)



内容・領域等では全領域において、全国平均を下回っている。評価の観点においても、すべての観点において、全国平均を下回っている。無解答率は全国平均と比較すると特に「図形」で高い。「数学的な見方や考え方」における無回答率が高く、課題がある。

(2) 成果と課題

①数と式

知識・理解の観点に該当する問題については正答率が高かった。しかし、数学的な技能にあたる分数の計算、数量を式で表すことについては、正答率が低く、特に連立二元一次方程式の問題では大きな差が見られたので、基本的な計算を反復して取り組ませることで、基礎力を高める必要がある。

②図形

無解答の問題は少なく、図形に対する関心は高い方だと言える。作図問題や直線と平面の位置関係、移動に関する問題では全国平均を上回っていたが、数学的な技能の中でも、扇形の弧の長さや体積を求める問題では全国平均を下回っていた。数学的な技能の定着と、それを活用する力をつける必要がある。

③関数

関数領域では、全国平均を大きく下回っており、どの問題にも無解答者がいた。特に反比例の表から比例定数を求める問題の正答率が低かった。グラフの特徴を表と関連付けて理解することや、グラフだけでなく表から読み取る力、問題の解き方を説明する力が必要である。

④資料の活用

階級の相対度数を求める問題は正答率が全国平均を上回っていたが、範囲を求めること、同様に確からしいことについての正しい記述を選ぶ問題の正答率が低かった。資料の活用に関する問題を定期的に行い、その必要性や有用性を理解させることが大切である。また、グループ活動を取り入れた授業や、様々な場面(定期テスト・課題)で同様の問題を取り扱っていく必要がある。

(3) 学力向上のための取組

■学校においては

- 朝の小テストの充実や課題などの提出率向上に努め、計算力などの底上げを行う。特に、四則計算の反復練習を絶えず行い、単元毎の基礎的な内容も取り入れ、確実な習熟を目指す。
- 数学で学習する用語を使いながら、自分の意見や考えを書く時間を確保する。また応用問題では、学習指導要領の領域と領域の間で知識のつながりがあることを意識させ、活用力の向上を図る。
- 細やかな日々の指導を通して、個々のつまづきを早期に見つけ、数学に対する苦手意識を少なくする。また、ICTを効果的に利用し、視覚的に分かりやすい授業の実践に努める。

■家庭においては

- 数学は毎日1問でも解くという習慣が力につながります。多くの問題と出会い、いろいろな解き方を学ぶことが大切です。宿題やテストに目を通し、お子さんが今何を学習しているか、確実に理解できているか、解くのにどれくらいの時間がかかっているかを把握し、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果(どちらかといえばの回答も含む)

調 査 項 目	本校(%)	全国平均(%)
1. 朝食を毎日食べているか。	100.0	92.8
2. 毎日、同じくらいの時刻に寝ているか。	92.0	79.8
3. 授業以外で10分以上読書をしている。	75.6	50.0
4. 新聞を読んでいますか。	30.8	10.4
5. 将来の夢や目標をもっていますか。	92.0	69.0
6. 平日、家庭で2時間以上勉強している。(塾や家庭教師も含む。)	46.2	41.8
7. 自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる。	85.0	63.5
8. 携帯電話、スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている。	84.6	67.9
9. 平日、2時間以上テレビゲーム(スマートフォンや携帯を含む)をしている。	15.4	57.0

■生活習慣について

朝食を毎日食べることや就寝時間については全国平均を上回っており、全体的には規則正しい生活が定着しています。引き続き、生徒個人の実態に応じた生活指導や教育相談を徹底させる必要があります。また、新聞を読んだり、TVやインターネットで、ニュースを見たりする割合は全国平均より高く、社会に目を向けることで、学校の授業にも興味を抱ききっかけになってほしいものです。中学生でも問題となっているネット依存について、携帯やスマートフォンの使い方については、家庭での約束がきちんとできており、全国平均に比べ、ゲームやメールなどに費やす時間が少ないようです。今年度は SNS によるトラブルは起きておらず、情報モラル教育を継続し、節度をもったネットの利活用を促していきたいです。読書の習慣については、全国平均よりも高いとはいえ、十分とはいえ、朝読書の充実とともに今後の課題としてあります。

■家庭学習について

将来の夢や目標をもっている生徒の割合が高く、全国平均に比べ予習・復習・計画的な取り組みをしている生徒の割合も、高くなっています。また、各教科から出される日々の課題も提出率が割と高く、多くの生徒は、家庭での学習習慣が身に付いていると言えます。家庭学習では、時間と量の面だけでなく、課題の内容や自主学習ノートの指導などを通じて、授業と関連性をもたせ、基礎・基本がより定着した上で、活用力を付けさせたいと考えています。

(2) 改善に向けての取組

■学校においては

- 生徒自身が見通しをもって学習に取り組むことができるよう、授業では毎時間「めあて」と「振り返り・まとめ」を提示するなど、誰もがわかる授業内容の工夫と指導方法の向上に努め、さらに個別の対応にも力を入れていく。
- 学級担任による学習面の個人面談を実施し、その結果を受けて生徒一人一人に応じた課題の内容や量を検討していく。月曜日の小テストは、国語、社会、数学、英語、理科の5教科で実施する。自主学習ノートを毎日提出させ、各教科担当で確認し、アドバイスをを行う。

■家庭においては

- テレビ、DVD、ゲーム、パソコン、携帯、スマホなどを使用させる場合は、ルールなどを親子で話し合い、過剰な使用をさせないよう引き続きご指導をお願いします。また、学校でも情報モラル教育に力を入れていますので、家庭でも機に応じてお子さんに声かけをお願いします。
- 学習においては、家庭で学習する習慣を身に付けさせるために、毎日継続させることが大切です。習慣づけのために毎日自学ノートに取り組み、提出するようになっています。自学ノートには学習のめあてと振り返りを記入し、目的をもって取り組むよう指導しています。確認の声かけ、習慣が身に付いた生徒に対しては、内容の質を向上させていけるよう励ましの声かけをお願いします。